

令和３年度 国語科 １学年 年間指導計画・評価計画

《１》教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

《２》各学年・各分野の目標

- 1、社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 2、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- 3、言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

《３》評価の観点及びその趣旨

知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
学びに向かう力、人間力等	言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

《４》観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。（８０％以上）
	B	おおむね満足できる状況である。（５０％以上）
	C	努力を要する状況である。（５０％未満）

評定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度が高いもの。（９０％以上）
	4	十分満足できる状況である。（８０％以上９０％未満）
	3	おおむね満足できる状況である。（５０％以上８０％未満）
	2	努力を要する状況である。（２０％以上５０％未満）
	1	一層努力を要する。（２０％未満）

《５》指導上の配慮事項

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。
- ② 必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫する。
- ③ 「話すこと・聞くこと」に関する指導については、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
- ④ 「書くこと」に関する指導については、実際に文章を書く活動を重視する。
- ⑤ 「読むこと」に関する指導については、さまざまな文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにすると

ともに、他教科等における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行う。

- ⑥ 言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにする。
- ⑦ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- ⑧ 道徳科などとの関連を考慮しながら、国語科の特質に応じて適切な指導をする。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	1 広がる学びへ			
4月	見えないだけ 1時間 ◎言葉の使い方や表現の特徴に着目し、自分なりの感想をもちながら読む。(読(1)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を通読する。 - 好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 2 詩の表現に着目し、題名に込められた作者の思いを捉える。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 - 作品を通して感じたことや、友達と話し合ったことを基に、詩の特徴が効果的に伝わるように工夫して朗読する。 4 学習を振り返る。 - どんな表現の工夫があったか。 - 詩に込められた作者の思いからどんな考えをもったか。	【関】表現の特徴を生かし、工夫して朗読しようとしている。 【読】表現の特徴や、作者のものの見方や感じ方について、自分なりに感想をもっている。 【言】作品中の語句の語感を捉え、自分なりにイメージを広げ、語彙を豊かにしている。
4月	アイスプラネット 5時間 ◎登場人物の言動に着目して、人物の関係や心情の変化を捉える。(読(1)ア・イ) ◎登場人物の考え方や生き方などについて、自分の経験などに関連づけて考えをもつ。(読(1)エ) ★小説を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(ア)(イ))	1 2-3 4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 - 注意する語句・新出漢字を調べる。→p28言葉 「ぐうちゃん」に対する「僕」、「母」、「父」それぞれの思いがわかる発言や行動を挙げる。(学習1) 2 登場人物の言動や心情を表す表現から、「僕」の心情の変化を捉える。(学習2-1, 2) 1で挙げた部分を基に、場面展開に沿って、「ぐうちゃん」に対する「僕」の気持ちの動きを捉える。(学習2) →p28窓「登場人物の関係を捉える」 →p325窓「文学的な文章を読むために」 3 「ぐうちゃん」からの手紙と写真を受け取った「僕」の心情を読み取る。(学習2-3) - 手紙の文面から、「ぐうちゃん」の考えや思いを捉える。 - 手紙と写真を受け取った「僕」の心情を、これまでの言動と結び付けて読み取る。 4 「ぐうちゃん」の生き方や考え方について自分の経験と比べながら感想をもち、友達と交流する。(学習3) 5 学習を振り返る。 「僕」の思いはどのように変わっていったか。 「ぐうちゃん」の考え方や生き方をどのように考えたか。 漢p29「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】作品に描かれた情景や登場人物の気持ちを、作品の中の表現や自分の経験を踏まえて想像しようとしている。 【読】・登場人物の言動を手がかりにして、人物の関係や心情の変化を捉えている。 支 1行空けて句切られた場面ごとに、心情を直接表す語句や、心情の表れた言動を描写した部分を整理させる。 登場人物の考え方や生き方を適切に捉え、それについて、自分の経験を根拠にして考えをもっている。 支 「ぐうちゃん」の手紙の中で、最も強く考え方が表れた部分を考えさせる。 【言】登場人物の言動や心情を表す言葉に着目して、作品を読み進めている。 【言】問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読み書きしている。

4月	練習 要点を整理して聞き取る 1 時間 ◎目的や状況に応じ、話の要点や順序を整理しながら聞き取る。 (話聞(1)エ)	1	1 p30「店の人の話」を聞き、必要な情報をメモする。 →C D ・自分が電話をしているつもりで、必要事項のメモを取る。 ・店の人に確認すべきことを挙げる。 2 聞き取ったことを友達に説明する。 ・自分が取ったメモを基に、グループ内の友達に必要事項を説明する。 ・グループ内の友達から、不明な点や確認したい点について質問してもらう。 3 「上達のポイント」を読み、情報を整理して聞き取るために注意することを理解し、日常生活や学校生活に生かす。	【関】情報を的確に聞き取るための工夫について考え、話の要点をメモに取ろうとしている。 【話聞】情報を的確に聞き取り、要点を押さえたメモを作成している。 支 必要な項目を提示してから、「店の人の話」を改めて聞かせ、その項目を聞き取らせる。また、初めから全ての項目を聞き取らせるのではなく、徐々に項目を増やし、回数を重ねて聞き取らせ、メモを完成させる。 【言】相手や目的に応じて、話の要点や順序が変わることに気づいている。
	季節のしおり 春		・二十四節気の言葉や、春の情景を詠んだ和歌・短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇p64「短歌を味わう」、p112「気持ちを込めて書こう」、p212「表現のしかたを工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。	
5月	枕草子 3 時間 (読・伝国②書①) ◎日本の四季を描いた情景描写の巧みさを読み取り、作者の四季の捉え方や感じ方について自分の考えをもつ。(読(1)イ・エ) ◎伝えたいことを明確にし、自分の季節感が効果的に伝わるように、描写や構成を工夫して書く。(書(1)イ・ウ) ○朗読を通して言葉の響きや調子を楽しみ、四季折々の風物に寄せる作者のものの見方、感じ方に触れる。(伝国(1)ア(7)(イ))	1-2	1 「枕草子」を朗読し、古文に読み慣れる。 ・新出漢字を調べる。 ・現代語訳を参考に、情景を想像しながら読み、言葉の響きや調子に親しむ。 ・心に残った季節の一節を暗唱する。 2 四季の趣について、作者の感じ方を読み取る。 ・季節ごとに、作者が「何」の「どんな様子」を「どう感じた」かについて整理する。 3 自分流「枕草子」を書く。 →p33「自分流『枕草子』を書こう」 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を現す文章を400字程度で書く。 4 書いた文章を友達と読み合い、清少納言の感じ方について感想をまとめる。 →p278資「古典の世界を広げる」	【関】「枕草子」の内容に興味をもち、朗読して内容を理解しようとしている。 【読】描写の効果を考えて内容を理解し、作者の季節に対するものの見方や考え方について、感想をまとめている。 支 優れた描写を具体的に挙げるとともに、作者のものの見方、考え方を示す「をかし」「あはれ」などの語の意味を確認させる。 【書】自分なりの季節感が効果的に伝わるように、構成や描写を工夫して書いている。 支 友達との交流を通して、さまざまな視点や描写に気づかせる。 【言】「枕草子」の文体の特徴を生かして朗読している。

5月	多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る 6時間 ◎社会生活の中から紹介する事柄を決め、多様な方法で情報を集めながら、自分の考えをまとめ、構成を考えて書く。(書(1)ア・ウ) ◎書いた作品を読み合い、構成のしかたや情報の活用のしかたなどについて助言し合い、自分の考えを広げる。(書(1)オ)	1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を集める。 ・何について調べるか決める。 ・多様な方法で情報を集める。(図書館・資料館・インターネット・身の回り・調査・聞き取りなど) →p288^資「発想を広げる」 →p37^窓「情報を集め、考えをまとめるには」 3 2 情報を整理し、考えをまとめる。 ・集めた情報を整理する。 ・自分の考えをまとめる。 3 紙面構成を考える。 ・割り付け(レイアウト) ・内容の順序・分量 ・図表やグラフ、写真など 4-5 4 下書きをし、紙面を作る。 ・下書き ・推敲→清書 6 5 感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・どのようにして自分の考えをまとめたか。 ・どのように文章にまとめ、助言し合ったか。	【関】興味をもった職業について情報を集め、自分の考えをまとめ、自分なりの職業ガイドを作ろうとしている。 【書】・興味をもった職業について、複数の方法で情報を集めて自分の考えを整理している。 支 図書館やインターネットなど比較的アプローチしやすい情報を活用することから始めさせる。 ・調べたことや自分の考えが伝わるように、紙面構成を考えてまとめている。 支 p38「職業ガイドの例」をモデルに、おおまかな項目を提示したり、図や写真などの活用について考えさせる。 ・作品を読み合い、まとめ方や情報の活用の仕方について助言し合っている。 支 助言し合うときの評価のポイントを提示する。 【言】多様な方法で集められたそれぞれの情報の語句の意味を適切に理解したうえで、読者を考慮し、補足説明や言い換え、語の統一を図っている。
	漢字 1 熟語の構成 2時間 ◎熟語の構成について理解する。(伝国(1)イ(イ)、ウ(ア)(イ))	1-2 1 導入の例を基に、熟語の構成について考える。 2 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 3 練習問題に取り組む。 ◇p257「漢字の練習」を適宜活用し、小学校6年生で学習した漢字の理解を深めさせる。	【関】熟語の構成について興味をもち、理解しようとしている。 【言】熟語の主な構成について理解している。 支 補充問題を提示し、練習問題と合わせて取り組ませる。教科書の既習教材の中の熟語を取り上げて、考えさせる。

	2 多様な視点から			
6月	生物が記録する科学 ーバイオロギングの可能性 4時間 ◎文章の構成や、事実と考えの示し方に着目して、説明のしかたの特徴を捉える。(読(1)イ・ウ) ◎説明されている内容を的確に捉え、ものの見方や考え方を広げる。(読(1)エ) ★説明を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(4))	1 2-3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章を序論（話題提示）・本論（具体的な説明）・結論（まとめ）の三つのまとまりに分け、文章構成を捉える。(学習1) ◇序論・本論・結論については、説明文の基礎として、1年生の学習を思い出させる。 →p13「いつも気をつけよう」 →p327^質「説明的文章を読むために」 2 本論を読み、調査によって明らかになったことを二つに分けて捉える。(学習2-1) ◇事実の説明で、図や写真が効果的に用いられていることにも着目させ、文章との関連を考えて内容を読み取らせる。 3 本論での説明のしかたの特徴を、事実と筆者の考えの示し方などに着目して捉える。(学習2-2) →p49^窓「説明のしかたの特徴を捉える」 →p327^質「説明的な文章を読むために」 4 筆者が「バイオロギング」のどんな点に可能性を感じているかを捉え、それに対して感じたこと、考えたことをグループで話し合う。(学習3) 5 学習を振り返る。 ・本文の説明のしかたの特徴は、どのようなものだったか。 ・筆者の研究に対する姿勢や考え方は、どのような言葉や表現、説明のしかたから強く感じられたか。 ^漢p50「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】事実と考えの示し方などに着目して、説明のしかたの特徴を捉えようとしている。 【読】文章の構成や事実と事実に対する筆者の考えの組み合わせに着目して、説明のしかたの特徴を捉えている。 支 出来事・調査結果などの事実を説明した部分を、文末表現や、事実の説明に用いられる図や写真などに着目させて捉えさせる。 ・研究に対する筆者の考えを的確に捉え、それに対して自分の考えをもち、話し合っている。 支 筆者の考え方がまとめられている結論部分に着目させる。 【言】説明の中で用いられている語句や熟語の意味を的確に捉え、発表や話し合いの中で正確に使うことができている。 【言】問題に取り組む、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
6月	練習 説明のしかたを工夫する 1時間 ◎伝えたい事柄をわかりやすく伝えるために、説明のしかたを考えながら文章を書く。(書(1)イ・ウ)	1	1 身近な物の中から説明したい事柄を選ぶ。 ◇説明のしかたが学習の中心なので、「衣・食・住」など、なるべく身近な物の中から選ばせる。 2 事柄について、何を説明したいか目的を明らかにして、ふさわしい説明のしかたについて考える。 3 説明のしかたを決め、説明する内容について考える。 ・p51の例を参考に、効果的に伝える説明のしかたを決める。 ・目的を考え、集めた情報を整理し、必要な情報を選択する。 4 選んだ説明のしかたに沿って、構成を考え、文章にまとめる。 5 書いた文章から、互いの文章の工夫している点や改善すべき点について話し合う。 ◇同じテーマで、他の形態を選ばせて書かせてもよい。	【関】事柄が効果的に伝わるように、説明のしかたを自分なりに工夫しようとしている。 【書】説明する事柄の特徴を明確にし、適切な説明のしかたを選んで書いている。 支 何を伝えたいのか目的を確認させ、必要な情報を整理させる。 【言】目的に応じて文章の形態や展開が変わることに気づいている。

6月	魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする 5時間 ◎情報を多様な方法で集め、聞き手を想定して整理し、わかりやすい説明の構成や展開を考える。(話聞(1)ア・イ) ◎資料や機器を活用し、写真や図表などと言葉を効果的に組み合わせて説明する。(話聞(1)ウ) ★調べてわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。(話聞(2)ア)	1 2-3 4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 提案する相手・目的・事柄を決め、材料を集める。 ・プレゼンテーションをする相手と目的を確認し、グループで提案する事柄について話し合う。 ・日常生活、図書館、インターネットなどから情報を集める。 →p288^資「発想を広げる」 2 材料を整理し、進行案を作る。 ・相手の知りたいことを想定し、効果的な説明のしかたについてグループで話し合う。 ・話し合いを基に進行案を作り、効果的な説明や、資料の示しかたについて検討する。 3 進行案を基に、グループごとにプレゼンテーションを行う。→^{CD} ◇聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。 4 各グループの説明について評価し合う。 →p55^窓「興味・関心を引く提案をするには」 5 学習を振り返る。 ・聞き手が関心を示すようにどんな工夫をしたか。 ・聞き手の同意や理解が得られたか。	【関】グループの話し合いに進んで参加し、聞き手や目的を意識したプレゼンテーションを行おうとしている。 【話聞】・多様な方法で情報を集め、目的や聞き手に合わせて、材料を整理して、伝えたいことが明確な構成、展開を作ることができている。 支 p54「進行案の例」の「コースの概要」など、わかりやすくするための工夫点を示す。 ・聞き手を意識し、資料や機器を活用してわかりやすく説明している。 支 グループ内で、簡単なリハーサルを行わせる。 ・構成や話し方に注意しながら発表を聞き、要点を捉え、それに対して意見を述べている。 支 p30「要点を整理して聞き取る」を参考にメモに取らせたり、聞き取る観点を書いたワークシートを用意したりする。 【言】相手や目的に応じて、話の構成や話し方を工夫している。
6月	メディアと上手に付き合うために 情報コラム 著作権について知る 2時間 ◎メディアの特徴について書かれた文章を読んだり、自分で多様なメディアから情報を集めて比較したりして、メディアとの付き合い方について自分の考えをもつ。(読(1)エ・オ) ★新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較する。(読(2)ウ)	1 2	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 p56「メディアと上手に付き合うために」を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・「テレビ」「新聞」「インターネット」の特徴を、表などにまとめる。 ・筆者の「メディア」に対する考え方を読み取る。 2 p59「いろいろなメディアから得た情報を比べよう」を読み、実際に自分で社会の出来事から話題を選んで調べる。 →P286^資「新聞記事を比べる」 3 1, 2を踏まえ、メディアとの付き合い方について考える。 4 「著作権について知る」を通読し、著作権について知識を深める。 5 学習を振り返る。 ・「テレビ」「新聞」「インターネット」には、それぞれどのような特徴があったか。 ・メディアとの付き合い方について、どんな考えをもったか。	【関】メディアの特徴に興味をもち、付き合い方について考えたり、情報を集めたりしようとしている。 【読】さまざまなメディアの特徴を理解し、活用のしかたや注意点について、自分の考えをまとめている。 支 スポーツなど身近な話題について、事例を用意しておく。 【言】新聞やインターネットなど、メディアによって文章の形態や展開が違うことに気づいている。
	言葉 1 類義語・対義語・多義語 2時間 ◎類義語と対義語、多義語の意味や用法について理解し、語感を磨き、語彙を豊かにする。(伝国(1)イ(イ))	1-2	1 導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性に興味をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれがどのような意味の関係にあるのかを考える。 ・「生活に生かす」を読み、語彙の増やし方について今後に生かす。 ◇p292「感情を表す言葉」を参考にしてもよい。	【関】教科書の例や身近にある類義語・対義語・多義語などに興味をもち、語彙を増やそうとしている。 【言】類義語・対義語・多義語の概念について、具体例に当てはめて理解している。 支 基礎的な語例を示し、辞書で調べさせる。

3 言葉と向き合う				
7月	新しい短歌のために 短歌を味わう 3時間 (読②書①) ◎解説文の筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ。(読(1)エ) ○短歌に示された語句の効果的な使い方や描写の効果を理解し、情景を想像しながら朗読する。(読(1)ア、伝国(1)ア(7)) ◎心情や情景が伝わるように、描写を工夫して短歌を創作する。(書(1)イ・ウ) ★短歌を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べ合う。(読(2)ア) ★表現の仕方を工夫して短歌を作る。(書(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「新しい短歌のために」を通読し、短歌の特徴などを知るとともに、五首それぞれに込められた心情や情景を想像する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(学習1) ・短歌の特徴についてまとめる。(学習2-1) ・筆者のものの見方や感じ方が表れている語句や表現などの意味を考える。(学習2-2) ・五首の解説を基に、短歌の表現の工夫と効果について、確認する。	【関】短歌の形式や表現に興味をもち、その世界に親しもうとしている。 【読】解説文に表れた筆者のものの見方や考え方について、自分の体験や読書経験と関連づけて感想をまとめている。 ・短歌を語句の使い方や描写の工夫に触れながら読み味わい、感想をまとめている。 支 小学校で学習した作品なども示しながら、歌に込められた作者の思いに近づけるようにする。 【書】学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして、自分の体験や思いが伝わるように短歌を作っている。 支 学校行事などに際して創作させたり、「季節」「自然」「家族」など、具体的なテーマを設けたりする。 【言】短歌に使われている言葉の語感の豊かさや、口語と文語の違いなどに気づき、受ける印象や意味の差異に気づいて作品を解釈している。
		2	2 「短歌を味わう」のそれぞれの作品を読み、表現の工夫や効果、思い浮かべた情景や心情について考えを述べ合う。 ◇グループごとに一首ずつ担当したり、グループの中で各人が一首ずつ分担したりするなど、状況に合わせて活動する。	
		3	3 p67「短歌を創作しよう」に取り組む。 ・目にした情景、心に残る出来事や感動したことなど、題材を探して短歌を作る。 4 学習を振り返る。 ・短歌の世界に親しむためには、どのようなことに着目したか。 ・短歌で心情や情景などを伝えるためにどのような工夫をしたか。	
7月	言葉を比べよう 1時間 ◎似た気持ちを表す言葉を比べ、言葉のもつ意味について考え、語感を磨く。(伝国(1)イ(4)) ◎言葉の微妙な違いが効果的に伝わるように、題材や構成、描写を工夫して物語を書く。(書(1)ア・ウ)	1	1 教材文を読み、言葉の微妙な違いについて考えることの意義を確認する。 2 似た意味の言葉を使って物語を書く活動を通して、言葉の共通点や相違点を明確にし、語感を磨く。 ・p69のそれぞれの言葉の意味や用法について確認し、共通点と相違点をまとめる。 ・似た意味の言葉を一組選び、100字程度の物語を作る。 ◇教科書の例ばかりでなく、類語辞典などを参考にさせてもよい。また、p292「感情を表す言葉」も参考にできる。 ・書いた作品を友達と読み合い、言葉に対する考え方を広げる。	【関】似た気持ちを表す言葉に興味をもって、意味や用例を調べようとしている。 【書】選んだ言葉の微妙な違いが伝わるように、物語にまとめている。 支 二人一組で、類義語一組を分担して書かせ、比較させてもよい。 【言】気持ちを表す言葉の微妙な違いについて考え、語感を磨いている。 支 教科書の既習教材（1年生教材も含む）などの場面設定を借りて、該当する感情を表す語を複数の語と比較して選ばれる。
	言葉の力 2時間 ◎「言葉の本質」についての筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。(読(1)ア・ウ・エ) ★随筆を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章を三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。(学習1)	【関】自分や周囲の人の言葉の使い方を見つめ直し、自らの言語生活を振り返っている。 【読】挿話と筆者の考えとの関連を捉え、言葉と人との関わりについて自分の考えをまとめている。
		2	3 言葉についての筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。(学習2) ・「言葉の一語一語」を「桜の花びら一枚一枚」にたとえた筆者の考えを読み取る。 ・文章を読んで感じた、言葉に対する自分の考えをまとめ、友達と交流する。 4 学習を振り返る。 ・筆者の考える「言葉の本質」とはどのようなものだったか。	支 1行空きのまとまりに気づかせ、言葉に対する筆者の考えが書かれた部分と挿話の書かれた部分とを押さえさせる。 【言】イメージを喚起する筆者の言葉の選び方や、比喩の巧みに学ぼうとしている。

[illegible]

4 関わりの中で				
9月	盆土産 5時間 ◎作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。(読(1)イ) ◎作品に描かれている優しさや温かさなどを、表現に即して読み味わう。(読(1)ア) ★物語を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(4))	1 2-3 4-5	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 ・三つの部分それぞれに描かれた内容をノートに整理する。(学習1) ◇場面が変わる「時」に着目させる。 2 登場人物の人柄や心情を捉える。(学習2) ・登場人物の言動や様子を描いた表現から、人柄や心情を考える。 →p105窓「時間の経過や出来事に着目する」 → p 325窓「文学的な文章を読むために」 ・方言の効果について考える。→p104言葉 ・「えびフライ」「えんぴフライ」が出てくる場面から心情を考える。 3 いちばん印象に残る場面について話し合う。(学習3) ◇具体的な表現を挙げさせて、自分の考えを述べるようにさせる。 4 学習を振り返る。 ・登場人物の人柄や心情をどんな描写に着目して捉えたか。 ・どの場面のどんな表現から、優しさや温かさを感じたか。 漢p105「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】登場人物の人柄や心情を表現に即して読み取ろうとしている。 【読】・構成や、会話文に見られる方言、登場人物の言動の描写に着目し、人柄や心情を捉えながら作品を読み味わっている。 支 「父親」の言動や様子の描写を抜き出させ、そこから受ける印象を考えさせる。 ・作品全体を通してもたらされている優しさや温かさについて、人物の描かれ方などに着目して、自分なりに考えを深め、話し合っている。 支 父親と語り手である子供との関係がどのようなものかを結末の場面を中心に考えさせる。 【言】方言が、作品に優しさや温かさをもたらしていることに気がついている。 【言】問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
9月	字のない葉書 3時間 ◎人物の言動や様子の描写に着目して、人柄や心情を捉える。(読(1)ア・イ) ◎筆者の父親への思いや家族のきずな、人間関係について自分の考えをもつ。(読(1)エ) ★随筆を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 文章中に書かれた二つの思い出の内容をノートに整理する。(学習1) ◇必要に応じて、時代状況を解説する。1年生「大人になれなかった弟たちに……」の学習も思い出させるとよい。 3 登場人物の人柄や心情を捉える。(学習2) ・父親の言動から、その人柄や心情を捉える。P110「言葉を広げる」の課題にも関連させる。 →p110窓「心情の描き方に着目する」 → p 325窓「文学的な文章を読むために」 ・妹に対する家族の心情を、妹が置かれた状況の変化に沿って想像する。 ・なくなった父親に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているかを考える。 4 父親に対する「私」の思いについて、共感できることや、共感しにくいと思うことを発表し合う。(学習3) 5 学習を振り返る。 ・どんな思い出から、父親のどんな人柄や心情を捉えたか。 ・父親に対する「私」の思いについて、どのようなことを考えたか。	【関】表現に込められた語り手(「私」)の思いを捉えようとしている。 【読】・言動や様子を表す表現に着目して、父親の人柄や心情を読み取っている。 支 父親の人柄は、部分的な言動のみを見るのではなく、場面の状況や他の部分と読み合わせて、総合的に捉えさせる。 ・家族のきずなに対する筆者の考え方と自分の考えを比較し、友達を話し合っている。 支 作品の中の表現を具体的に挙げながら、どう思ったのかを考えさせる。 【言】作品中の語彙の豊かさや美しさに気づき、意味や使い方を調べ、自分の表現に生かそうとしている。

9月	練習 推敲して適切な文章に直す 1 時間 ◎書いた文章を読み返して推敲し、言葉の使い方や表記に誤りがない文章にする。(書(1)エ)	1	1 教材文を読み、言葉の使い方や表記の誤りについて発表し合う。 2 p111「上達のポイント」の四つの観点を基に、教材文を書き直す。	【関】言葉の使い方や表記のしかたに関心をもち、誤りを直そうとしている。 【書】四つの観点を理解して、誤りがない文章にしている。 支 辞書を積極的に活用させる。 【言】相手に応じた言葉の使い方や表記を理解している。
	気持ちを込めて書こう 手紙を書く 4 時間 ◎伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるよう表現や構成を工夫して手紙を書く。(書(1)イ・ウ) ◎手紙の書き方を知り、推敲して相手や目的に応じた手紙を書く。(書(1)エ)(伝国(1)イ(ア)) ★社会生活に必要な手紙を書く。(書(2)ウ)	1 2-3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 教材文を読み、手紙の書き方を知る。 →p290[窓]「手紙の書き方」 2 相手と目的、内容を決めて下書きをする。 →p288[窓]「発想を広げる」 →p115[窓]「手紙を書くときには」 3 友達どうして下書きを読み、気づいたことを話し合う。 4 友達の助言も踏まえて推敲する。 →p111「推敲して適切な文章に直す」 5 清書して、手紙を送る。 6 手紙以外の通信手段について考える。 7 学習を振り返る。 ・伝えたい内容を明確にするために、どんな点に注意したか。 ・手紙の書き方を理解したか。	【関】手紙の特徴や書式に関心をもち、相手に応じて書こうとしている。 【書】・伝えたい内容を明確にし、効果的に伝わるように表現や構成を工夫して書いている。 ・形式を整え、推敲して相手や目的に応じて手紙を書いている。 支 伝える相手と目的を確認させる。 【言】時候の挨拶や「拝啓」「敬具」など手紙特有の言葉や、敬語を適切に使っている。
10月	モアイは語る —地球の未来 5 時間 ◎文章の構成や論の展開に着目して、筆者の主張を捉える。(読(1)イ) ◎構成や展開の工夫や筆者のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。(読(1)ウ・エ) ★論説を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(ア)(イ))	1 2-3 4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 筆者たちの研究以前にわかったこと、筆者たちの研究によってわかったことを確認する。(学習1) 3 筆者の論の展開と主張を捉える。(学習2) ・序論での問いや問題に対応した説明を確認する。 ・本論の話題に応じた小見出しを付ける。 ・イースター島と地球の状況から筆者の主張を捉える。 →p123[窓]「論の展開に着目して筆者の主張を捉える」 →p327「説明的な文章を読むために」 4 筆者の主張を読み取り、自分の考えをもつ。(学習3) →p123[言葉] ・例に挙げられた言葉を使って自分の考えをノートに書く。 5 筆者の論の展開のしかた、説得力のある述べ方の工夫について友達と話し合う。(学習3) 6 学習について振り返る。 ・筆者の述べ方には、どんな工夫があったか。 ・筆者の主張に対して、自分の知識や体験と重ねてどんなことを考えたか。 [漢]p124「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】筆者が主張していることを読み取ろうとしている。 【読】・序論の問題提起に対応した本論の説明や、本論を受けた結論など、論の展開を押さえて、筆者の主張を捉えている。 支 序論・本論・結論の文章構成を、p13「いつも気をつけよう」、p327「説明的文章を読むために」などを参照させながら確認させる。 ・筆者の主張の説得力について自分なりの根拠を挙げて判断し、さらに、文章のテーマについて自分の体験や知識と比較して考えを深めている。 支 イースター島の事例と、結論部分の筆者の主張との対応について、結び付くかどうか、結び付きの程度はどうかを考えさせる。 【言】環境問題を論じるときに使われる漢語を本文から探し、自分の文章の中で使っている。 【言】問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読み書きしている。

10月	言葉 2 敬語 1 時間 ◎敬語の働きについて理解する。(伝国(1)イ(ア))	1	1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。 ・p127「生活に生かす」を読み、実際の生活場面を想起し、適切な組み合わせについて考える。	【関】 敬語の働きや種類について関心を持ち、理解しようとしている。 【言】 敬語の働きについて理解している。 支 ロールプレーイングなどで、さまざまなケースを想定して実演させる。
10月	漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 1 時間 ◎同訓異字や同音異義語などの意味・用法の違いについて理解する。(伝国(1)イ(イ)・ウ(ア)(イ))	1	1 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の文脈に合わせた使い分けを考える。 2 教材文を読み、同音異義語について理解する。 3 練習問題に取り組む。 ・p129「練習問題」を適宜活用する。 ◇辞書などを使って、生徒自身に問題を作らせて、解き合ってみることも効果的である。	【関】 漢字の訓や音に関心をもち、同じ訓の漢字や同音異義語に対する理解を深めようとしている。 【言】 文脈や言葉の意味に注意して、同じ訓をもつ漢字、同音異義語の使い分けができています。 支 学年別配当漢字（小学校で学習する漢字）を用いた練習問題を解かせる。
	季節のしおり 秋		・二十四節気の言葉や、秋の情景を詠んだ和歌・短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇p64「短歌を味わう」、p112「気持ちを込めて書こう」、p212「表現のしかたを工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。	
	5 いにしえの心を訪ねる			
10月	音読を楽しもう 平家物語 1 時間 ◎朗読して、古典の世界を楽しむ。(伝国(1)ア(ア))	1	1 「平家物語」の主な内容と文章の特徴を知る。 2 教材文を朗読（音読）、あるいは暗唱する。	【関】 歴史的仮名遣いや漢語に関心をもち、朗読しようとしている。 【言】 歴史的仮名遣いやリズムなど作品の特徴を捉えて朗読している。
	扇的 —「平家物語」から 3 時間 ◎古典の文章を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。(伝国(1)ア(ア)(イ)) ◎登場人物の言動から心情を理解し、作品に描かれたものの見方や考え方について自分の考えをもつ。(読(1)イ・エ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 「平家物語」の冒頭部分p132や、「扇的」を繰り返し朗読する。(学習1) 3 場面の状況と登場人物の心情を考える。(学習2) ・与一と見守る人々の心情を、それぞれの言動から考え、話し合う。 ◇P140-141の図版から、おおまかな時代背景などを捉えさせるとよい。	【関】 作品独特の調子やリズムを意識して朗読しようとしている。 【読】 登場人物の言動から心情を考え、そこに表れた価値観などに対して、自分なりの考えをもち、意見を述べている。 支 扇を射るまでの与一の言動と、射た後の与一の行動、また「弓流し」の義経の行動から考えさせる。 【言】 朗読を通して作品独特の言葉の調子やリズムに慣れ、作品のよさを見つけている。
		2	◇P140-141の図版から、おおまかな時代背景などを捉えさせるとよい。	
		3	4 「平家物語」に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。(学習3) ◇P138「弓流し」の場面も合わせて読み、武士の考え方などを捉えさせる。 5 学習を振り返る。 ・古典の文章の調子やリズムについて、どんなことを感じたか。 ・登場人物の行動や心情から、どのようなものの見方や考え方を読み取ったか。	

10月	仁和寺にある法師―「徒然草」から 3時間 (読・伝国②書①) ◎古典の文章を朗読して表現に慣れ、作品を読み味わう。(伝国(1)ア(ア)(イ)) ◎登場人物に対する作者の考えを述べた部分から、ものの見方や考え方について自分の考えをもつ。(読(1)イ・エ) ◎古典の登場人物の人物像について、伝えたい事柄を明確にし、文章の構成を工夫して書く。(書(1)イ) ○古典の登場人物の人物像について書いた文章を読み合い、自分の考えを広げる。(書(1)オ) ★多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を書く。(書(2)イ)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 「徒然草」の冒頭部分と、「仁和寺にある法師」の原文を繰り返し朗読する。(学習1) →p144「係り結び」 2 3 登場人物の行動を捉え、作者のものの見方を考える。(学習2) ・法師が勘違いしてしまった原因を原文やp143の図を使って説明する。 ・作者が法師の言動について考えた内容を原文から捉える。 4 法師の人物像を根拠を明らかにして、話し合う。(学習3) →p278「窓」 「古典の世界を広げる」 3 5 「平家物語」「徒然草」で学習した登場人物の人物論を300字程度で書く。 6 学習を振り返る。 ・どんなことに気をつけて文章を朗読したか。 ・作品のものの見方・考え方について、どんなことを感じたか。	【関】 作品独特の調子やリズムを意識して朗読しようとしている。 【読】 登場人物の行動を通して述べられた作者の考えについて自分の考えをもち、述べている。 支 文章が、法師のエピソードの部分と作者の考えの部分から構成されていることに気づかせ、作者の考えに着目させる。 【書】 選んだ登場人物の特徴がわかる言動を具体的に挙げて、文章構成を工夫して自分の考えを書いている。 支 p145の例の構成を参考にして意見を書かせる。 【言】 朗読を通して作品独特の調子やリズムに慣れ、作品のよさを見つけている。
漢詩の風景 3時間	◎漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。(伝国(1)ア(ア)(イ)) ◎漢詩に歌われている情景や人物の心情を想像し自分の考えをまとめる。(読(1)ウ)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 三編の漢詩を繰り返し朗読する。(学習1) ・漢詩特有の言葉遣いや調子に着目する。 2 3 漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を読み味わう。(学習2) ・解説文を参考に、季節、情景、作者の心情をノートにまとめる。 3 4 三編の漢詩から自分の好きな一編を選び、その理由を述べる。(学習3) ・根拠となる表現や句を引用して述べる。 5 学習を振り返る。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子はどんなところに表れていたか。 ・それぞれの漢詩から、どんな情景や心情を読み取ったか。	【関】 漢詩特有の言葉遣いや調子に関心をもち、描かれた内容を考えようとしている。 【読】 それぞれの漢詩に歌われている季節、情景や心情を、表現に基づいて想像し、まとめている。 支 漢詩の表現と解説文を対応させる。 【言】 朗読を通して作品独特の調子やリズムに慣れ、作品のよさを見つけている。

6 論理を捉えて				
11月	君は「最後の晩餐」を知っているか 4 時間 ◎語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。(読(1)ア・イ・ウ) ◎筆者の絵画の見方について、自分の知識や体験と関連づけて考えをもつ。(読(1)エ) ★評論を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(イ))	1 2-3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 ・初めて知ったことや興味をもったことを書き出す。(学習1) ・「評論」という文章の形態について確認する。 →p163^窓「評論を読む」 2 「最後の晩餐」に使われている「解剖学」「遠近法」「明暗法」について説明する。(学習2) 3 筆者が「最後の晩餐」を「かっこいい。」と思った理由を説明する。(学習2) ◇「かっこいい」のほか、文末表現も「だろう」「ではないか」など、主観的な表現が多く用いられていることにも注意させ、使われている語句と「評論」という文章の形態との関係も意識させる。 →p327^窓「説明的文章を読むために」 4 筆者の絵画の見方や感じ方に対して、自分の考えを述べる。(学習3) 5 学習を振り返る。 ・どんな言葉に着目して筆者の考え方を捉えたか。 ・筆者の絵画の見方について、自分はどうか考えたか。 ^漢p163「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】評論という文章の種類について興味をもち、筆者の絵画の見方について読み取ろうとしている。 【読】語句や表現の工夫に着目して読み、筆者のものの見方や考え方を読み取っている。 支 キーワードである「かっこいい」が、何に対して使われているのかを文脈に沿って整理させる。 ・筆者の絵画の見方について、自分の考えや感想をもっている。 支 自分が美術館や書籍などで芸術作品を見ると、どんな観点で見ているのかを振り返らせ、筆者の見方と比較させる。 【言】事実や出来事を正確に伝える説明や記録と異なり、評論が対象の価値などについて自分の考えを伝えるための文章の形態であることを理解している。 【言】問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
	練習 相手の考えを踏まえて発言する 1 時間 ◎相手の立場を尊重し、自分の意見と比較しながら発言する。(話聞(1)エ・オ)	1	1 「中学生に携帯電話は必要なのか」を読み、自分の考えをまとめる。→^{CD} ・p165の1、2の例を参考に同意と反論の意見を考える。 2 「上達のポイント」を読み、考えた自分の意見を述べる練習をする。 ◇「つまり」「今の話をまとめると」などの表現も、話し合いなどで効果のある典型的な表現として覚えさせるとよい。	【関】相手の考えをしっかりと聞き、発言しようとしている。 【話聞】相手の考えを踏まえて自分の意見を述べている。 支 「上達のポイント」を読ませ、その方法を使わせる。 【言】適切な話し言葉や敬語を使っている。

11月	話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする 5時間 ◎社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定して考えをまとめ、論理的な構成を考えて話す。(話聞(1)ア・イ) ◎相手の意見や考えを尊重しながら目的に沿って討論し、互いの発言を比較・検討しながら自分の考えを広げる。(話聞(1)エ・オ) ★社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行う。(話聞(2)イ)	1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 パネルディスカッションについて知り、話し合うテーマを決める。 →p288窓「発想を広げる」 ◇議論を通し、自分やグループの考えを深めることが目的であることを押さえる。 2 テーマに対する立場を考え、立場ごとにグループに分かれる。 3 グループで説得力のある意見と根拠を考える。 ◇異論、反論を想定しながら考えることで、自分たちの意見や根拠に説得力が増すことに気づかせる。 3-4 4 進行計画を立て、パネルディスカッションをする。 →CD ◇フロアにも聞き取りメモなどを取らせ、話し合いの参加者であることを意識させる。 →p170窓「話し合って考えを広げるためには」 →p165「相手の考えを踏まえて発言する」 →p30「要点を整理して聞き取る」 5 討論を振り返り、次への課題を見つける。 5 6 学習を振り返る。 ・役割に応じて、協力して討論を進めたか。 ・意見について多角的に検討し、考えを広げたか。	【関】テーマについて自分の考えをまとめ、討論に参加し、さらに考えを深めようとしている。 【話聞】・異なる立場を想定して考えをまとめ、説得力のある根拠を述べている。 支 根拠は、初めから一つに絞らず、できるだけ挙げ、その中から最も説得力の高いものを選ばせる。 ・相手の意見の要点を自分の考えと比べながら聞くことができる。 支 聞き取りメモを取らせ、相手の根拠と意見を分けて整理させる。 【言】テーマに沿って話し合いを深める目的になかった話のしかたや表現を用いている。
11月	練習 意見文の説得力を考える 1時間 ◎伝えたい内容を明確にし、相手に効果的に伝わるよう根拠の示し方を工夫して書く。(書(1)イ・ウ)	1 1 A Bの教材文を読み、説得力のある方を選び、その理由を考える。 2 「上達のポイント」を読み、根拠の示し方や反論を踏まえている点に気づく。 ◇教材文のテーマで、「上達のポイント」の三つの項目に注意して文章を書いてもよい。	【関】意見文における説得力の必要性を理解し、そのための工夫を文章の中から見つけようとしている。 【書】意見を効果的に伝えるための要素として、根拠と反論に対する考えの示し方を理解している。 支 統計調査のほか、どのようなことが、考えを支える根拠となるのか、例を挙げさせる。 【言】相手や目的に応じて、話や文章の形態に違いがあることを理解している。
12月	根拠を明確にして意見を書こう 意見文を書く 5時間 ◎社会生活の中から課題を決めて、適した情報を集めて自分の考えをもつ。(書(1)ア・イ) ◎自分の意見と根拠を明確にして、効果的に伝わるよう文章構成などを工夫して書く。(書(1)ウ・エ) ★多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を書く。(書(2)イ)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 社会生活の中から課題を決め、自分の意見を明らかにする。 →p34「多様な方法で情報を集めよう」 →p288窓「発想を広げる」 2-3 2 自分の意見とそれを支える根拠を明らかにする。 4-5 3 構成を考え、下書きを書く。 ・反論を想定した意見も書く。 →p171「意見文の説得力を考える」 →p174窓「明確な意見文を書くには」 4 意見文を清書し、読み合い、助言し合う。 5 学習を振り返る。 ・自分の意見をもつことができたか。 ・説得力のある意見文となるように工夫したか。	【関】自分の立場や意見が伝わるように、根拠を明らかにして書こうとしている。 【書】自分の立場を決め、根拠を明らかにして、構成を工夫して文章を書いている。 支 実際に文章にするとときは、根拠は数多く挙げるのではなく、最も強く意見を支えるものに絞って挙げさせる。 【言】意見文にふさわしい論の展開や、語句の使い方などに気づいている。

12月	落葉松 1時間 ◎表現のしかたに注意して、自分の考えをもちながら読む。 (読(1)ア・ウ) ★詩を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する、 (読(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 表現技法や連の構成などの表現のしかたに着目し、情景や作者の感じ方を捉える。 3 グループで表現のしかたについて感じたことを話し合う。 4 学習を振り返る。 ・表現や構成にどのような特徴があったか。	【関】 表現のしかたに着目して詩を読もうとしている。 【読】 表現のしかたや、作者のものの見方や感じ方について自分なりの感想をもっている。 支 「見き」「さびしかりけり」などの文語の意味を示す。 【言】 反復など、表現技法について理解している。
	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 2時間 ◎用言の活用について理解する。(伝国(1)イ(エ))	1 2	1 教材文を読み、動詞の形の変化について考える。 2 p244文法2「用言の活用」で、動詞の活用について考える。 3 p244文法2「用言の活用」で、形容詞・形容動詞の活用について考える。	【関】 規則的な語形変化に関心をもち、用言の活用を理解しようとしている。 【言】 活用形の種類と用言の活用の種類を理解している。 支 具体的な語例を挙げて、活用表を完成させる練習をする。
読書に親しむ				
12月	小さな町のラジオ発 —臨時災害放送局「りんごラジオ」 読書案内 1時間 ◎多様な方法で選んだ本や文章のものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。(読(1)エ・オ)	1	1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 災害時における情報の大切さについて、自分の考えをもつ。 3 筆者の「声」に対する考え方について、自分の考えをもつ。 4 p187-189の中から関心をもちた本を挙げる。	【関】 文章に描かれた状況を思い浮かべながら読み、同様のテーマやジャンルなどの本に、関心を広げようとしている。 【読】 筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもっている。 支 文章の中で最も心を動かされた部分や、考えさせられた部分を明らかにさせ、その部分を中心に考えをもたせる。 【言】 事象や出来事を伝える文章で用いられている語句に関心をもち、理解している。
	季節のしおり 冬		・二十四節気の言葉や、冬の情景を描いた散文、短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇p64「短歌を味わう」、p112「気持ちを込めて書こう」、p212「表現のしかたを工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。	

7 表現を見つめて				
1月	走れメロス 6時間 (読⑤書①) ◎心情を表す語句や、登場人物の言動の意味などを考え、人物像の変化を捉え、作品を読み深める。(読(1)ア・イ) ◎表現のしかた及び主人公の考え方について、根拠となる部分を挙げて自分の考えをもつ。(読(1)ウ) ○伝えたい事柄を明確にして、構成や文章の形式を選び、表現を工夫して書く。(書(1)イ・ウ) ★小説を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア) ★表現のしかたを工夫して創作する。(書(2)ア) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(4))	1-2 		

2月	言葉 3 方言と共通語 2 時間 ◎方言と共通語の果たす役割について理解する。(伝国(1)イ(7))	1 1 導入の「捨てる」の例から、地域による言葉の違いについて考える。 2 教材文を読み、方言と共通語について考える。 ・語句・表現・文法・発音の違い。 ・共通語の必要性。 2 3 p217「生活に生かす」を読み、方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について意見を交流する。	【関】 方言や共通語に関心をもち、それぞれの使われ方について考えようとしている。 【言】 方言と共通語の役割や特徴について理解している。 支 地域の身近な方言、テレビ番組や書籍などから方言を探させて興味をもたせる。
	科学はあなたの中にある 3 時間 ◎抽象的な語句に注意しながら、事例と主張の関係を考えて内容を理解する。(読(1)ア・イ) ◎筆者の「科学」に対する考え方について、知識や体験を結び付けて考える。(読(1)エ) ★ 論説を読み、内容や表現のしかたについて自分の考えを述べる。(読(2)イ) ○文章に用いられている漢字を正しく読み、小学校で学習した漢字に書き慣れる。(伝国(1)ウ(7)(4))	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 「科学」という言葉から思い浮かぶ物事や体験を挙げる。(学習1) 2 3 「ろうそくにまつわる二つの話」についての事例をまとめる。(学習2) 4 事例と「科学とは何だろう。」という筆者の問いとの関連を話し合う。(学習2) 3 5 筆者の考え方について、知識や体験を結び付け、自分の考えをまとめる。(学習3) →p224 窓 「自分の知識や体験と比べて考える」 →p327 資 「説明的文章を読むために」 →p224 言葉 6 学習を振り返る。 ・「二つの話」と筆者の「科学」に対する見方や考え方は、どうつながっているか。 ・筆者の「科学」に対する見方や考え方について、自分はどうか考えたか。 漢 p225「漢字を確認しよう」の問題に取り組む。	【関】 自分の知識や体験と照らし合わせながら、文章を読み、考えを深めようとしている。 【読】 ・事例と主張の関係を捉えて、筆者の見方や考え方を理解している。 支 二つのそれぞれの事例を述べた部分、主張を述べた部分など、内容ごとに分けて要点を捉えさせようとして、関係性を考えさせる。 ・「科学」について、自分の知識や体験に結び付けて考え、交流している。 支 理科の授業の体験や、ニュースなどから得た知識などを書き出させ、筆者の主張と関連づけさせる。 【言】 文章中で使われている抽象的な語句の意味を必要に応じて調べ、自分でも使おうとしている。 【言】 問題に取り組む、漢字をおおむね正しく読み書きしている。
2月	漢字 3 送り仮名 1 時間 ◎送り仮名の付け方の基本を理解する。(伝国(1)ウ(7)(4))	1 1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 3 p227の練習問題に取り組む。	【関】 送り仮名の付け方に関心をもち、理解しようとしている。 【言】 送り仮名の主な原則と例外について理解している。 支 「活用語尾」などについて、文法2「用言の活用」で確認させる。

3月	一年間の学びを振り返ろう 6時間 (話聞③書③) ◎1年間の学習について、資料や機器などを使って簡潔に発表するとともに、互いの考えについて話し合い、自分の考えを広げる。(話聞(1)ア・ウ・エ・オ) ◎1年間の学習について材料を集め、構成や描写を工夫して書く。(書(1)ア・イ・ウ) ★考えたことに基づいて説明や発表をしたり、それについて意見を述べたりする。(話聞(2)ア)	1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 1年間の学習を振り返り、必要な材料を集める。 ◇p14「続けてみよう」など授業以外での学習についても目を向けさせる。 2 報告書の内容・構成を考える。 3 グループで話し合う。 ・口頭発表のために内容を整理し、資料を作る。 ・それぞれが3分程度で発表し、質問や感想を伝え合う。→CD →p231窓「資料を効果的に使って説明するには」 →p231「アドバイスをするときの表現」 4-5 4 報告書をまとめる。 →p232「報告書の例」 6 5 報告書を読み、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・発表のしかたは効果的だったか。 ・国語学習を振り返る報告書が書けたか。	【関】1年間の学習について関心をもって振り返り、より伝わりやすい発表や報告書にしようとしている。 【話聞】・資料や機器などを効果的に使い、わかりやすく説明している。 支 資料は、必要なものに絞らせる。 ・グループでの検討で出てきた友達の発表のよいところや質問などを生かして、自分の考えを広げている。 支 友達の発表を聞く観点として、材料・内容・構成などの項目を挙げておく。 【書】わかりやすい構成や説明の工夫をして報告書を書いている。 支 p232「報告書の例」に沿って、「初めに」、本論、「終わりに」などの一般的な報告書の構成を示す。 【言】発表と報告書とで、話し言葉と書き言葉の違いがあることなどを理解し、それぞれにふさわしい表現や展開を意識している。
鍵	2時間 ◎言葉の意味を考えながら作者が詩に込めた思いを捉え、自分の考えをもつ。(読(1)ア・イ・ウ) ★詩を読み、内容や表現のしかたについて感想を交流する。(読(2)ア)	1 「目標」や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を通読する。 ・新出漢字、注意する語句を調べる。 2 一つ一つの言葉の意味を考えながら読み、作者の思いを捉える。 ・「鍵」についての表現から、それがどのようなものか、何を象徴しているのかを捉える。(学習1) ・詩全体から「この世」に対する作者の思いや考えを捉える。(学習2) 2 3 詩を読んで、自分の考えをもち、発表する。 ・自分がこれからどんな「鍵」を探し出したいかを発表し合う。(学習3) ◇詩の内容を理解した上で、それが伝わるように朗読させてもよい。 4 学習を振り返る。 ・詩の中のどんな表現に着目して、作者の思いを捉え、それに対してどんな考えをもったか。	【関】詩の内容に関心をもち、作者の思いを考えようとしている。 【読】作者が思い描いているイメージや思いを読み取り、自分の考えをもつ。 支 第四連については、難語句を調べさせたり、適宜解説を加えたりしながら、イメージを映像的に捉えさせる。 【言】作者独自の語の選択のしかたが、詩の世界を決定づけていることを理解し、自身の語彙と比較させるなどして、語感を磨き、語彙を豊かにする。